



トトリ トトリ通信

朝鮮高校無償化ネット告知

12月2日 第10回口頭弁論がありました！

今年一番の寒さの中、約150人の方々が肩を寄せあい抽選に並びました。

今回で原告の陳述が最後となり、原告10名が全員陳述を終えることとなりました。原告は、高校時代を振り返りながら、特に朝鮮舞踊に打ち込んだかけがえのない時間に何を得たのかを心から訴える姿が印象的でした。

＜…朝鮮舞踊は、朝鮮語や歴史、文化、全身で故郷を感じられる、「第2の祖国」であり「かけはし」であり、民族の文化を守る場である朝鮮学校、朝鮮人として生きて行く事、朝鮮民族を理解する事は、朝鮮文化を守ることになる。民族を学ぶ朝鮮学校は、ルーツそのもの…。無償化から除外され、5年。高校生活の中で、最も大事な舞踊の時間も街頭活動に何度も費やした。意味があるのか、不安、恐怖、落胆。高校生が差別の中、駅前に立ち署名活動をする事がどんな事なのか、考えてくれたことがありますか？朝鮮学校を否定される事は自分自身を否定されること…。

私たちも日本の学生と同じように学んでいる。学ぶ権利は平等でなければならないし、そう主張しながら保障出来ない/しない日本がオリンピックを開催しても良いのでしょうか。朝鮮学校が減少や廃校に追い込まれ、差別や偏見で危機にさらされ、大切なコミュニ

ティが奪われている現実を見て見ぬふりできず、私は原告となりました。

可愛い後輩がまだ闘っているのかと思うと胸が傷みます。民族の尊厳を守るため、やれる事を精一杯やります！>

最後の原告の陳述にふさわしい、とても立派な主張でした。舞踊部はどの部活動に比べてもその練習量は多く、始発に乗って朝練をし、舞踊部の母親は年中、寝不足だといえます。綺麗なチョゴリや衣裳をまとい、舞台に立つ姿は惚れ惚れしますが、彼女たちは心で踊り、誇りをまとう事で、ほんの何分の作品を輝かせます。

裁判はこれで第1ステージから第2ステージへと進みます。

1年前、裁判が始まった頃、「裁判は、裁判官を説得するもの」と話された支援者がいました。裁判官が原告を救済する気持ちになるように原告、支援者が一体になって働きかけるものだと。

そのために、偏見と誤解をとり判断してもらうために、第1ステージで長々と在日朝鮮人、そして朝鮮学校の「歴史」を語り、差別構図を理解させてきたのである。

第2ステージでは、国の間違いを憲法に沿って説得する活動になります。

きわめて曖昧な国の主張に反論することは難しいが、弁護団はいつも笑いながら立ち向かっています。まさに、「道険笑歩」！

長い裁判闘争は今年も続きますが、みんなの力を合わせてがんばっていきましょう！

次回 第11回口頭弁論

次回 第12回口頭弁論

・2015年2月3日(火)

・2015年4月21日(火)

両日共に、名古屋地方裁判所にて14時から行われます。
傍聴抽選は13時30分に締切になります。

作成：USM～受審～ウリハッキョサポートネットメンバーズ

